

欧米文化Ⅱ－Ⅰ

科目ナンバリング EUL-103
【Ⅲ】 選択 2単位

木谷 徹

1. 授業の概要(ねらい)

「感受性」および「美的＝感性的(エッセティクなもの)」という言葉 키워ドとして、西洋の文学・文化に触れることを目的とします。春期の講義ではロマン派詩人P・B・シェリーの詩論『詩の擁護』(1821)を通じて、彼が親しんだ古典古代から19世紀前半までの代表的な西洋文学を俯瞰することを試みます。「詩的なもの」とは何かというシェリーの問いかけを追体験することによって、西洋文学のなかにある美的＝感性的なもの(美感的なもの)をめぐる思想を探索します。

2. 授業の到達目標

- ・20世紀以降の学問的見地からだけではなく、19世紀前半のヨーロッパを生きた詩人シェリーのまなざしを通じてヨーロッパ文学・文化の歴史をみてゆくことで、その歴史的な流れを重層的あるいは多角的にとらえ、ある程度説明することができる。
- ・「感性」をめぐるさまざまな文学的な描写や表現に触れることで、感じた事柄をみずからの言語によって表現することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・毎回課される提出課題の成果 30%: 各回のテーマとなる西洋文学・文化の内容について、文化的観点とあわせて理解し説明できるかを評価します。
- ・学期末の最終試験の成果 45%: 学期をつうじて学んできた西洋文学・文化の内容について、文化的観点とあわせて理解し説明できるかを評価します。
- ・平常点 25%: 授業への参加・貢献度、受講態度(積極的かつ協調的に学ぶ態度等)の状況を基準とします。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は用いず、教員が自作の資料を毎回配布します。

参考文献

上田和夫訳 『シェリー詩集』(2007年改版) 新潮文庫

アルヴィ宮本なほ子訳 『対訳シェリー詩集』(2013年) 岩波文庫

5. 準備学修の内容

以下のような準備学習課題を出します。この予習をもとに授業を進めますので、予習を怠ると授業の理解を深められなくなります。

- ・授業内で扱われる内容についてのリアクション・ペーパーを記入する課題(12回程度)
- ・配布資料や参考文献および関連資料の読み込み

6. その他履修上の注意事項

- ・欠席および公欠の扱いについては、大学の規程にしたがいます。
- ・遅刻(授業開始時刻に着席していない)が複数回ある場合は、欠席としてカウントします。
- ・私語は厳に慎んでください。
- ・受講に際してとくに配慮が必要な場合(病気や怪我その他)は遠慮なく申し出てください。

7. 授業内容

- 【第1回】 イントロダクション
- 【第2回】 シェリーのまなざしを通じたヘレニズムとヘブライズム
- 【第3回】 シェリーとプラトン——美と愛(エロス)の概念について
- 【第4回】 シェリーとローマの詩人(1)——ウェルギリウスを中心に
- 【第5回】 シェリーとローマの詩人(2)——オウィディウスを中心に
- 【第6回】 「永遠の女性」をめぐる——ダンテとシェリー
- 【第7回】 ネオ・プラトニズムの神学とシェリーの美学
- 【第8回】 シェイクスピアを読むシェリー
- 【第9回】 絶対者への挑戦——ミルトンの『失楽園』とシェリーの『鎖を解かれたプロメテウス』
- 【第10回】 感受性の人——シェリーの導き手としてのルソー
- 【第11回】 感受性の時代と前＝ロマン主義
- 【第12回】 ロマン主義の時代(1)——イギリスにおけるロマン派第一世代の詩人を中心に
- 【第13回】 ロマン主義の時代(2)——イギリスにおけるロマン派第二世代の詩人を中心に
- 【第14回】 全体のまとめと最終試験
- 【第15回】 LMSによる講義——自己省察にもとづくレポート作成
※状況に応じて授業内容の順番、あるいは内容そのものが変更される可能性もあります。